■ 2011 年 03 月 24 日　朝日新聞

原発の北西 30 キロ内、高い放射線量　米が空から測定

【ニューヨーク＝勝田敏彦】 米エネルギー省 (DOE) は 22 日、福島第１原子力発電所の周辺上空を飛ぶ米軍機などが測定した放射線量や地上のデータから、被災地域の地上の人が 1 時間あたりに浴びる放射線量を推定した結果を公表した。原発から北西方向に線量が高い長さ 30 キロほどの「帯」が広がっていることがわかる。

空中測定は 17〜19 日に行われた。推定結果にある毎時 125 マイクロシーベルトを超える放射線量の帯は、地元自治体の観測でも高い放射線量が観測されている福島県の浪江町や飯舘村付近を通っている。

DOE は「調査した全域で毎時 300 マイクロシーベルトを超えておらず、放射線レベルは低い」としつつも、高い線量の帯の中では 8 時間ほどで、一般市民が年間で浴びる人工放射線の線量限度 1 ミリシーベルト（1 ミリは 1 千マイクロ）を超える計算になる。

DOE は推定結果を随時更新し、ウェブサイトで公表する。

■ 2011 年 05 月 02 日　政府・東電統合対策室 会見

NHK 記者 質問

「アメリカの DOE、アメリカの航空機からの測定は 17 日に既に始まり、3 月 23 日にホームページに公開されている。アメリカのホームページによれば、日本側にも全て情報を提供しているといっている。その図を見れば、飯舘村のあたりまで汚染は明らか。17 日の時点でそのようなことが明らかなのに、何故に何の行動もとらなかったのか。そういう不作為によって、どれだけの国民が余計な被曝をしたのか。安全委員会のひとはどのように考えているのか」

「3 月 17 日時点で明らかに……。日本は主権国家だ。同盟国アメリカであろうと領土内で測定を許すからには、我が国の利益にならないといけない。その情報を得ていながら何もしなかったのはどういうことかと聞いている」